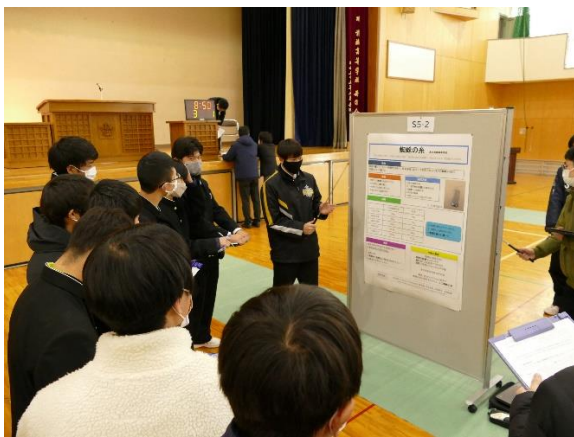


## 令和4年度 SSH 成果発表会を開催しました！

1月28日(土)に本校体育館・記念館の2会場を使って開催しました。午前中に2学年67グループ、午後には1学年71グループが、ポスターセッション形式で1年間の研究成果を披露しました。県内の大学等から計16名の講師の先生を迎えて指導・助言をいただいたほか、多くの保護者の方にもご覧いただきました。

### ○発表形式

1セットを15分(発表・質疑応答10分+リフレクションシートの記入・提出3分+移動2分)として6セットの時間を設定しました。各セットの発表担当を決めておき、発表担当ではないときに他の班の発表を見学しました。



▲2年生の発表

### ○2学年 研究テーマ(一部)

- ・放置竹林の竹から調製した竹炭のエチレン吸着特性
- ・成体のカモのV字の編隊遊泳の理由を水流の観点から研究する
- ・日本で発生した地震と電離圏嵐の関係
- ・棋力の高い将棋AIとして最適な活性化関数は何か？
- ・「めぶくID」を用いた教育プラン
- ・地元への関心増を目指した郷土史”体験”学習の実践方法について
- ・”スポーツ”で前橋をアツくする ～from downtown～



▲体育館会場の様子

### ○1学年 研究テーマ(一部)

- ・拒否権・ウクライナ侵攻に対する高校生の意識とその背景
- ・前橋市において求められる子育て支援とは何か
- ・女性の社会進出と経済成長の関連性について
- ・冷風穴の原理を用いて気温を下げる方法
- ・群馬県内河川のマイクロプラスチックの採取と含有量の分布
- ・温度の変化は炭酸カルシウムとリン酸イオンの吸着効率に影響するか



▲記念館会場の様子

## 若者へ前橋市を伝えるために ～情報発信とポイントで 前橋と若者を繋げる～

群馬県立前橋高等学校 文系4班 川崎晴菜 出口響 高瀬斗斗 白井康

人口が増える前橋市にはUターンが必要である。そのためには、若者が前橋市で良い思い出を作ってもらいたいと考えているが、現在の市の若者向けの政策は高校生に直接、というよりその保護者に対して支援するものが多い。このことから、高校生に直接関わる施策があれば、前橋市で良い思い出をした若者の将来的なUターンの促進につながるのではないかと考えた。

### 探究の過程

- [1]市からの情報が足りない  
・市で行われている活動や行事の情報が伝わっていない
- [2]情報発信の方法と工夫  
・市はどんな情報発信を行っているのか  
・他市の情報発信の工夫の調査  
(総務SNSやPR動画づくりなど)
- [3]市の魅力の伝達  
・市の活動や政策の情報が伝わらなければ魅力も伝わらない  
・若者に市の魅力が伝わっていないことが若者の市外流出にも繋がっているのではないかと  
・市の行う若者に対する施策がどうか
- [4]若者の意見と市役とのギャップ  
・大人から見た高校生が求めるものと実際に高校生が求めているものとギャップ  
・高校生ダイレクトの政策
- [5]今の若者の立場から何が出来るのか  
(インタビューを通じて)  
・市も若者の意見を聞かれない  
・若者も市に対して意見を発信する必要がある



質問① 高校生が前橋市に対してどういった意見を持っているか知る手段はあるのか。

現在、前橋市としては「前橋市庁舎」を高校生の意見の入り口として考えている。高校生活している高校生がイベントに参加しているが、前橋市として行った事業としては、「高校生フォトクラブ」と称し、前橋の風景を撮影する写真コンテストの企画を「前橋市庁舎」で開催している。ある程度Uターン（高校生からの反応）はあった。こうしたものを活かすことで、前橋市役所への意見が伝わり、高校生との関わりを持ち、互いの意見が前橋市役所まで届くというイメージ。

質問② 「めぶく。」により様々な事業が動いているが、「前」である前橋市として高校生に対して直接的に動こうと予定していることはあるのか。

高校生に限ったことではないが、卒業生のものとしては「前橋の地場産物の活用を促進するためのアプリを開発する」ということを考えている。現在、毎年開催している前橋のデジタル共創ポイントで高校生を中心としたワークショップを開催し、SNSを活用する世代への情報発信をより強化していきたい。



①前橋市をより魅力的にするために前橋市役所は高校生から市に対して高校生自身が提案や意見も積極的に受け止めて、高校生自身から市役所まで届くようにしたい。市役所から市役所まで届くようにしたい。市役所から市役所まで届くようにしたい。



高校生が主体的に動く  
市役所が主体的に動く  
高校生と市が話し合える場を作る  
市役所が主体的に動く  
高校生と市が話し合える場を作る

- <インタビュー協力>  
前橋市役所 政策推進課
- <参考文献>  
<https://www.city.maebashi.lg.jp/shimin/seisaku/sosokaku/1007722.html> 前橋市ホームページ
- <https://www.city.maebashi.lg.jp/shimin/seisaku/sosokaku/1007722.html> 前橋市役所ホームページ
- <http://shikoku1000.jp/about/> 西日本若者会議ホームページ

### ▲ 2年生のポスター（文系）

#### ○講師からのメッセージ（2年）

- ・研究の成果に対して、その結果が正しいという評価を行っているものが多数あって良かった。
- ・先行研究と自分の研究の違いを示しており、自分の研究の「オリジナリティ」がわかる点が良かった。
- ・図から結論が見えるポスターが望ましい。文章の補足が図ではなく、図の補足が文章というつもりでポスターをつくとよい。
- ・ポスター見学や発表技術を学ぶには「学会見学」に行くといよい。
- ・実際に地域を歩いて課題を発見している点が良かった。
- ・研究の着手に至る前に、着眼点を見つけるためのリサーチに時間をかけられるといよい。



▲閉会行事（講師への謝辞）

#### ○課題研究を通じて成長した点（2年生）

- ・1年時の反省点としてあげていた、「実験結果を数値化する」ということを2年時の実験では実行できたのでその点は評価できるものだと思う。
- ・実験が失敗した原因を論理的に考察することができた。
- ・先行研究について情報収集の質を高めたことで、より理論的に仮説を立てることができた。実験においても、先行研究を参考に班員と協力して進められた。
- ・外部に出て活動する機会を得ることで、その中で立ち居振る舞いや、社会の一般常識や形式に多く触れることができ、社会人になった際に必要なことを体験できた。
- ・1年生のときには、現状における課題の構造を分解する力が足りず、問題の本質を理解できていなかった。今年は「前橋市の地方創生」という大枠の中でテーマを考えたため、本当に重要な部分にしばって研究ができた。
- ・1年生のときは調べ学習になってしまい、結論も「評論家」になってしまったが、2年生ではインタビューなどを通して情報を得て、自分なりに噛み砕いて理解し、「プレイヤー」の立場でまとめられた。

前高 SSH 通信 魁け のバックナンバーは、前橋高校 HP よりご覧いただけます。